



平成29年9月13日

各位

会社名 クミアイ化学工業株式会社
代表者 取締役社長 小池好智
(コード番号 4996 東証第1部)
問合せ先 総務部長 中野健史
(TEL. 03-3822-5036)

新中期経営計画策定に関するお知らせ

クミアイ化学工業株式会社（以下、「クミカ」といいます。）は、当社グループの2018年度（平成30年10月期）から2020年度（平成32年10月期）にかけての中期経営計画を新たに策定しましたので、その概要をお知らせいたします。

本中期経営計画は、2017年5月1日に当社と旧イハラケミカル工業株式会社（以下、「イハラ」といいます。）が経営統合後初の中期経営計画となります。また、2018年度は創業70期を迎える年でもあり、新生クミカとして経営統合によるシナジー効果を早期に実現し、持続的に発展できる強い企業集団を目指します。本中期経営計画の次のビジョンとして M&A 等の非連続的な成長施策を展開しながら、2022年度には当社グループの売上高1,400億円以上を目指します。

1. 新中期経営計画の概要

新生クミカの経営統合シナジーとして、農薬の創製から研究・開発、原体の製造・調達、製剤、販売に至るプロセスが一体化されたことにより、全てにおけるスピード（意思決定、効率化）、コスト（スピードアップによる全ての場面でのコストダウン）、イノベーション（技術革新、総合科学力の発揮、優秀な技術者、研究者、業務改革、システム改革）の向上が期待されます。スピードがコスト競争力をつけ、イノベーションを生み出す原動力となります。

本中期経営計画では、当社グループの連携強化によるグループ事業の最大化と、以下の成長戦略を軸に、成長ドライバーであるアクシーブ剤の更なる海外市場での拡大および新たな柱となる化成品事業の育成に取り組みます。また、研究開発においては2017年11月に、株式会社ケイ・アイ研究所を統合して4研究所体制で一層の研究開発力の強化を図ります。

2. 基本方針

合併によるシナジー効果を早期に発現し、農業生産の課題を解決する研究開発型企業を中心とした“将来に亘って持続的に発展できる強い企業集団”を目指します。

3. 数値目標

連結指標	2017年度見込	2020年度目標
売上高	835億円	1,160億円
営業利益	33億円	90億円
ROE	8.3%	7.5%以上

※2017年度はイハラとの合併に伴う、負ののれん発生益2,813百万円、段階取得に係る差損841百万円を計上しているため、ROEは8%台になると見込まれます。

4. 成長戦略

農薬及び農業関連事業においては、新規剤開発力の高い当社が中核となりグループの売上および収益性の柱として継続的に拡大させます。化成品事業においては、塩素化反応、COS 反応など競争力のある技術を有しており、海外生産拠点を含めた事業の最適化を図りながら、当社グループの第二の柱として育成して行きます。

2022年度には、農薬及び農業関連事業と化成品事業の確実な拡大に加え、M&A および事業提携等により当社連結売上1,400億円への拡大を目指します。同時に得られた収益を活用し積極的な投資を行い、2022年度以降の既存事業の強化・拡大と生命科学技術等に基づく総合農業関連事業への事業領域拡大の礎を築いて行きます。

(1) 農薬及び農業関連事業

国内市場においては、より生産現場へ密着した営業活動と、選択と集中による自社開発剤の最大化に向けたマーケティング戦略を構築し普及・拡販を推進します。また、非農耕地分野では連結子会社となった株式会社社理研グリーンの販売ルートを最大限活用し、自社原体の拡大を目指します。

海外市場においては、畑作用除草剤アクシーブのインド、ブラジル、中国などでの登録取得による販売国の更なる拡大と、海外拠点の再構築によるマーケティング機能の強化を行うことで早期の最大化を図ります。また、直播水稻用除草剤のノミニーは、インドでの同事業をさらに拡大するため、現地製造および販売のための合弁会社 PI Kumiai Private limited を設立し、2018年度からの生産を開始します。

(2) 化成品事業

化成品事業では、タイ王国に設立した Iharanikkei Chemical (Thailand) Co., Ltd. の工場が2018年度には完成し、キシレン誘導体ビジネスの中心となる製品を生産します。また、当社グループの化成品プロジェクトチームを発足させており、生産拠点を含めた事業の最大化を図ります。

(3) 研究開発

新剤のパイプラインとして水稲用除草剤エフィーダ(フェンキノトリオン)の国内登録取得を近々見込んでおり、順次海外開発を進めています。更に水稲用殺菌剤ジクロベンチアゾクスの国内登録申請を準備しています。

今後、更なる新規原体開発力を強化するため、新剤創製を担っている子会社の株式会社ケイ・アイ研究所を2017年11月1日に当社に吸収合併し、旧クミカ、旧イハラの研究所を加え、4研究所体制にすることにより、新生クミカとして原体開発力、製品開発力の強化を図ります。

(4) 生産・調達

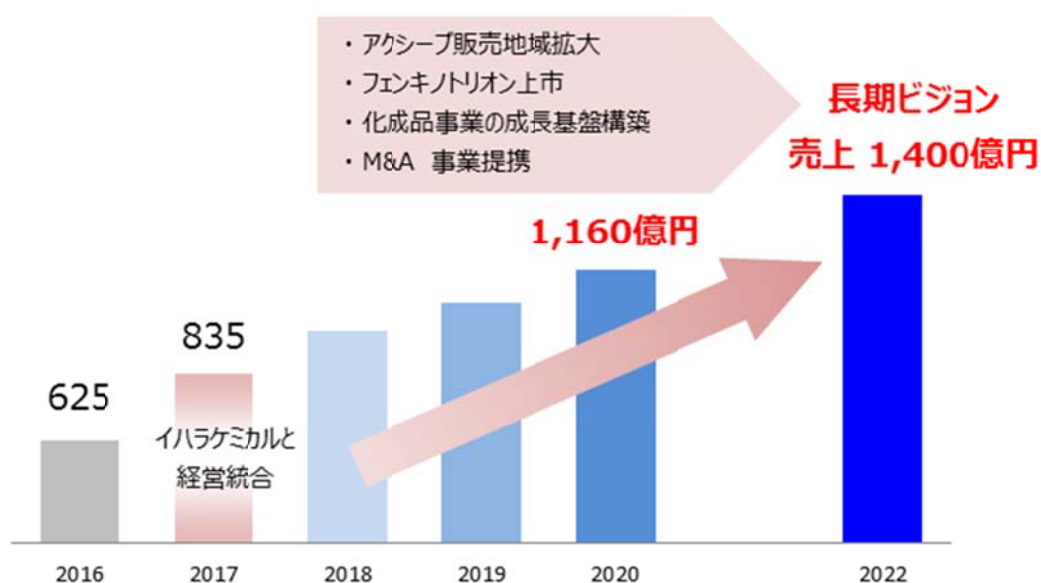
調達ネットワークの最適化と生産技術の革新により既存剤を含む自社開発剤のコスト低減を図り、価格競争力と収益性を高めます。更に原体および製剤工場の計画的な設備投資による高品質な製品の安定供給に努めます。

安全操業を確実に推進すると共に、ISO(品質・環境)システムの適切な運用により、顧客満足度の更なる向上に努めます。

5. 活力あふれる会社を目指して

これらの成長を支える従業員の活力向上を目指し、働く人の視点に立ち、一人ひとりのライフスタイルにあった働き方の実現を目指します。様々な属性の従業員が活躍できる様、ダイバーシティーの推進に取り組むとともに、ワークライフバランスの実現に向け、総労働時間の短縮、より積極的な育児・介護支援策、時差出勤制度・在宅勤務制度の導入等につき前向きに検討していきます。

2018 中期経営計画 -Create the Future 未来を拓く-



以上